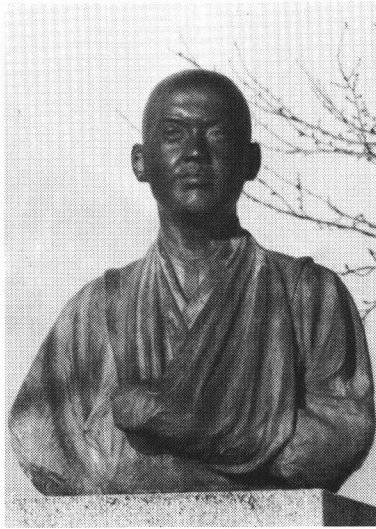


作文 「ぼくの左手」



野口英世少年の像(翁島小前庭)

野口清作は、猪苗代<sup>いなわしろ</sup>高等小学校四年のとき、つぎのような内容の作文を書きました。

ぼくの左手は、やけどでにぎりこぶしのままかたまっています。それは、ぼく

が三歳のときでした。

ぼくは、いつも左手をふところに入れて、かくすようにしていましたが、見つけられて、「てんぼう」といわれ、いじめられました。